



成隣だより

令和8年1月8日
第9号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘
TEL 042-541-0068



HPはこちら

「ウェルビーイング」と幸せへの学び

校長 松川 靖弘

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

年始には新たな目標を掲げ、心新たに進む決意をしますが、その根底には「子どもたちの幸せ」を願う気持ちがあります。近年、社会全体で注目されている「ウェルビーイング(Well-being)」に照らすと、単に健康であることだけでなく、「心身社会的に良好な状態」であり、子どもたちが自分らしく、生き生きと充実した毎日を送って欲しいという願いがあります。

「自分ならでき」～ 自己肯定感を育む3学期 ～

小学校の教育において、このウェルビーイングの土台のひとつが「自己肯定感」です。自分は大切な存在だと感じ、困難に直面しても「自分ならでき」と信じる力こそ、未来を切り拓く羅針盤となるからです。

3学期は、学年のまとめの時期であると同時に、次への準備を始める「助走期間」です。子どもたちには、以下の三つの「幸せへの学び」を大切にできるよう指導してまいります。

「幸せへの学び」

① 「できた！」を言葉にする

苦手な九九を覚えた、友達の気持ちに寄り添えた、忘れ物をせずに準備ができたなど、小さな成功体験を教師が具体的に承認し、子ども自身にも言葉で表現させます。

② 「自分らしさ」を大切にする

周りと同じでなくてもいい。自分の好きなこと、得意なことに自信を持ち、自他の個性を受け入れる環境を作ります。多様性を認め合うことが、一人ひとりのウェルビーイングにつながります。

③ 失敗を恐れず挑戦する力

失敗は悪いことではなく、成長のための貴重な「経験値」です。年度の締めくくりに向け、失敗を恐れず挑戦し、たとうまくいかなくても立ち直れる「レジリエンス」を育みます。

見守るという温かい協力

ご家庭でも、結果だけにとらわれず、子どもたちが「一歩踏み出したこと」や「自分なりに努力した過程」に温かい言葉をかけていただくと幸いです。それが、子どもたちの「心のエネルギー」となり、未来への強い一歩になります。

本年も、子どもたちが笑顔で登校し、毎日を生きていきと過ごせるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。引き続き、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

